

第 122 回富山大学眼科臨床カンファレンス

－ハイブリッド開催(現地+Zoom)－

謹啓 残暑の候、先生方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第 122 回富山大学眼科臨床カンファレンスを下記の要領で開催いたします。
ご多忙中とは存じますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

謹白

記

開催日時：令和 7 年 10 月 4 日（土）PM 6：30～PM 8：30

会場：富山県民会館 611 号

当日、現地+ライブ配信にて講演会を開催します。ネット通信トラブルに対応できない場合もありますので、できるだけ現地参加をお願いいたします。Zoom（オンライン）を使用しての参加も可能です。Zoom 参加される方は、事前に下記 QR コード・URL より参加申し込みをお願いいたします。申込受付返信メールは大変申し訳ございませんがいたしておりません。

ご了承ください。申込み URL <https://forms.gle/CYjPk1ur5ijx3c4Q6>

Zoom 申込期間は、開始：9/24(水)～終了：10/1(水)17：00 までといたします

【申込必要事項】

① 氏名、② 所属、③ メールアドレス、④ 専門医番号をご記入ください。

Zoom 申込者には URL、ID、パスワードをメール送信いたします。

【参加費について】

参加者は、ID、パスワード等のメール送信の際に振込情報をご案内いたします。

参加費は、2,000 円です。(会員は無料です)



プログラム

【現地での講演】

1. 【特別講演】(PM 6:30 ～ PM 7:30)

座長 新田 正昭 先生 (富山県眼科医会 会長)

「実症例で学ぶ白内障手術 ～合併症予防から難症例攻略まで～」

永田 万由美 先生 (獨協医科大学 眼科学講座 准教授)

2. 【特別講演】(PM 7:30 ～ PM 8:30)

座長 林 篤志 先生 (富山大学眼科学 教授)

「一筋縄ではいかない黄斑円孔に対する硝子体手術」

栗山 晶治 先生 (洛和会音羽病院アイセンター 所長)

*本会は日本眼科学会専門医制度認定事業（事業番号：59127）です。

取得単位数：現地/1 単位、Web/0.5 単位です。

*本会は日本医師会生涯教育制度における 2 単位（7,15）カリキュラムコードを取得することができます。

主催 富山眼科集談会

【要約】

実症例で学ぶ白内障手術 ～合併症予防から難症例攻略まで～

永田 万由美 先生

(獨協医科大学 眼科学講座 准教授)

白内障手術において、後発白内障や眼内レンズ偏位などの術後合併症、さらに小瞳孔症例やチン小帯脆弱症例、後囊破損症例などの難症例への対応は、良好な術後視機能獲得における重要な課題です。症例数の増加とともに、このような困難な症例に遭遇する頻度は高くなります。しかし適切な手術手技の工夫により、これらの合併症を予防し、難症例においても安全で効率的な手術を実現することが可能です。

本講演では、術後合併症を予防するための手術手技と、困難症例に対する具体的な対応策を、実際の症例を提示しながら解説します。明日からの診療に役立つ、有意義な講演になれば幸いです。

一筋縄ではいかない黄斑円孔に対する硝子体手術

栗山 晶治 先生

(洛和会音羽病院アイセンター 所長)

黄斑円孔に対する硝子体手術は、1991年の Kelly と Wendel の論文に始まる。その後、1995年に硝子体手術に内境界膜剥離を併施することの有効性が報告され、2000年以降に様々な内境界膜染色が開発されると共に、この術式は黄斑円孔に対する硝子体手術の gold standard となった。

しかし、この標準的な術式を用いてもなお閉鎖しない難治性黄斑円孔が存在することもわかってきた。これらに対して2010年以降、Inverted ILM Flap Technique を嚆矢として、自己内境界膜 transplant、自家水晶体後囊移植、自家神経網膜移植、羊膜移植等の様々な膜移植が発表されている。これらの歴史的経緯と各術式の長短所をまとめるとともに膜剥離の細部について詳述したい。